

## 巻頭所感

### ～資産運用情報 発行第 100 号を迎えて～

専務執行役員 アセットマネジメント事業長 成川 順一

皆さまのお役に立てる情報提供を目的として発行を始めた「資産運用情報」は、今月号の発行により 100 号を迎えました。第 1 号を発行した 2012 年 6 月は、政権交代やアベノミクスが始まる前夜であり日経平均株価も 9,000 円前後を推移する状況でした。その後、チャイナショックやイギリスの EU 離脱を決定する国民投票、そして直近ではコロナショック等、度重なる波乱はあったものの、2020 年 7 月末では 21,710 円まで上昇しています。一方、国内金利は 2016 年 1 月の日銀によるマイナス金利導入以降、10 年国債利回りはマイナスからゼロパーセントの間で推移し、国内債券による運用難は継続しています。

このような市場環境のもとでは、採り上げるテーマも時々の市場動向に影響を受ける傾向があります。債券の運用難に対しては、不動産やヘッジファンド等のオルタナティブ投資に関するもの、市場の急落に対してはリスク管理や下方リスク抑制運用、低ボラティリティ運用等を採り上げてきました。また一方で、運用技術や投資理念の進化や変化に応じたテーマも多く採り上げてきました。最近では AI 技術や ESG 投資がその例です。

執筆は、当社の受託資産の運用部門に属する部署が持ち回りで担当していますが、採り上げるテーマは担当する個人に任せており、内容についても個人の見解を尊重しています。そのため執筆者の担当業務ばかりでなく個人的に興味を持つ分野となることもあり、結果として、幅広い方に興味を持って読んでいただけているのではないかと考えております。

内容について機関投資家の方からお問い合わせを頂くことはよくありますが、最近、高校生の方からのお問い合わせがあったのでご紹介したいと思えます。この方は、大学では子供たちへの投資教育について研究を行いたいと考えている方で、当社のホームページで「2019 年 5 月号 No.84 インパクト投資 -現状とその可能性-」の記事を読み、「子供たちの投資教育についてどう考えるか」という質問をいただきました。この問い合わせについては、「高校生の段階で投資教育という将来の夢を持っていること」が驚きでした。資産運用は自動車やスマートフォンのような目に見える商品ではなく、また、野球やサッカーのように子供の頃から慣れ親しんだスポーツでもありません。資産運用に関連する職業を高校生が将来の進路として考えてくれる事は、現時点では多いものではないでしょう。

しかし、少子高齢化、人生 100 年時代に備えるためにも、高校生が将来なりたい職業のひとつとして「資産運用業務」をあげてくれるような環境作りは、日本の将来のためにも重要な事ではないかと考えております。

まだしばらくは新型コロナウイルス感染症が経済にもたらす影響は続き、不安定な市場環境が継続する懸念も高いと思われます。これからの100号でも、機関投資家の皆さまはもちろんのこと、また、高校生や大学生も含めた幅広い読者の方々に少しでも参考にしていただけるような「資産運用情報」の発行を継続していきたいと思えます。あわせて、資産運用業界全体の啓発に繋がれば幸いに存じます。